

910YU HIPシステム

再使用禁止

【禁忌・禁止】

〈適用対象（患者）〉

- (1) 適用部位もしくはその近くに局所の炎症、膿瘍、発熱、急性の骨吸収の所見など、感染の兆候を示す患者、または赤血球沈降速度の亢進や白血球の増加を示す患者には適用しないこと。[手術により症状が悪化する恐れがある。治療の為にインプラント抜去が必要になる恐れがある。]
- (2) 体重が 90kg 以上の患者には適用しないこと。[本製品が術後に破損する恐れがある。]
- (3) 本製品の材料に含まれている金属成分（コバルトクロムモリブデン合金）にアレルギーが確認されている患者には適用しないこと。[手術により当該症状の発生する恐れがある。]

〈併用医療機器〉

910 アルミナボールとは組み合わせて使用しないこと。
[「相互作用」の項参照]

〈使用方法〉

- (1) 再使用禁止。
- (2) 再滅菌禁止。[製品の品質低下や汚染の恐れがある。]
- (3) ステムのネック部を金属製器具で把持したり、ネック部に他の金属製器具などの硬い物体を衝撃的に接触させたりしないこと。[ネック部の術後破損につながるような有害な損傷や変形が生じる恐れがある。]

【形状・構造及び原理等】

- (1) 本製品は、大腿骨ステムである。
- (2) サイズ等については外装箱の表示ラベルに記載されている。
- (3) 材質は次の通りである。

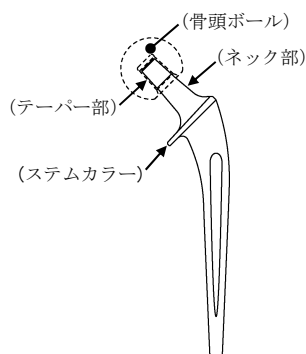
材質	コバルトクロムモリブデン合金
----	----------------

- (4) 骨との固定には、骨セメントを使用する。

〈原理等〉

本製品は、ステムに適合するよう形成された大腿骨近位部の髓腔に挿入、設置され、股関節の荷重支持機能を代替し、寛骨臼カップ又はパイポラカップの内球面と大腿骨ステムに装着する骨頭を摺動させるか、又はモノポラヘッドを装着することにより、股関節の可動性機能を代替する。

910YU ステム



※ 本製品には骨頭ボールは含まれていません。

【使用目的、効能又は効果】

変形性股関節症等の疾患による関節障害に対して行われる人工股関節置換術又は人工骨頭挿入術に用いる。

【使用方法等】

1. 使用方法

人工股関節置換術、人工骨頭挿入術に使用する。

本製品は、骨セメントを使用し用いられる。

本製品は、滅菌済み製品であるので、1 回限りの使用のみで再使用はできない。

2. 設置方法

(1) 術前

手術前に計測を行い、適切な形状寸法のものを選択する。

(2) 手術

専用手術器具を使用して、以下の手順で本製品を設置する。

- (1) 大腿骨頸部を切断して骨頭を除去した後、大腿骨近位部の髓腔を形成する（図 1）。



- (2) 髓腔の遠位端を栓でふさいだ後、骨セメントを充填する。



- (3) 本製品を髓腔内に設置する（図 2）。

- (4) 骨頭ボールを本製品のテーパ部に装着する（図 3）。



〈使用方法に関連する使用上の注意〉

- * (1) 本製品のテーパ部の形状と寸法は、当社製 910 ボールとのみ適合する。下記製品の当社製 910 ボールと組み合わせて使用すること。下記以外の製品については当社に問い合わせること。[指定外の骨頭ボールと組み合わせて使用した場合、術中もしくは術後にインプラントの破損や分解が生じる恐れがある。]

骨頭ボール

販売名	承認番号	製品タイプ
B I O C E R A M A Z U L ヘッド	22600BZX00510000	AZUL 910 ボール
B I O C E R A M A Z 2 0 9 ヘッド	22200BZX00858000	AZ209 910 ボール
P H Y S I O - H I P S Y S T E M ボール G A 0 3	20700BZX00358000	910 ジルコニア ボール
P H Y S I O - H I P S Y S T E M ボール G A 5 8	16300BZX00645000	910 メタル ボール
K C メタルヘッド	22500BZX00178000	

- (2) 当社の指定する以外の金属製インプラント（ワイヤー等）を使用する際は、本製品と接触しないようにすること。[金属製インプラント同士の直接接触により、本製品の有害な損傷や変形が生じる恐れがある。]
- (3) 本製品には X 線テンプレートが用意されている。術前にこの X 線テンプレートを利用し、本製品が患者の関節の解剖学的形状に適合していることを X 線写真上で確認すること。
- (4) 本製品には専用器具が用意されている。インプラントの組み立て、把持、骨への設置には、専用器具を使用し、定められた方法で行うこと。
- (5) 本製品と骨頭ボールを嵌合する際の注意事項

- 1) 本製品と骨頭ボールのテーパ面が、骨セメント、骨、血液などで汚染された状態のまま、嵌合しないこと。[テーパが正しく嵌合されず、骨頭ボールが分離する恐れがある。]

- 2) セラミックス製骨頭ボールの場合、本製品と骨頭ボールのテーパ面が、骨セメント、骨などで汚染された状態のまま、もしくはテーパ面に傷がある状態で嵌合しないこと。[セラミックス製骨頭ボールの強度が低下し、術後に骨頭ボールが破損する恐れがある。]
- 3) 骨頭ボールと嵌合するまでのステム・テーパ面の保護を目的とし、本製品のテーパ部分にはシリコン・キャップが装着されている。ボールを本製品に嵌合する直前まで、このシリコン・キャップはとらないこと。
- 4) 必ず次の手順にて骨頭ボールを取り付けること。
 - ① 骨頭ボールを回しながら本製品のテーパ面に装着し、骨頭ボールのテーパ面と本製品のテーパ面が密着していることを確認する。[骨頭ボールが斜めに入った状態で打ち込むと骨頭ボールに損傷を与える恐れがある。]
 - ② 専用の骨頭打ち込み器を介して3～5回強く槌打する。
 - ③ 骨頭ボールが本製品のテーパ面に完全に嵌合したことを確認する。
- (6) 本製品を骨に打ち込む際の注意事項
 - 1) 打ち込みは骨頭ボールを装着していない状態で行うこと。骨頭ボールを装着した本製品の打ち込みは、絶対行わないこと。[あらかじめ骨頭ボールを本製品に装着して本製品を槌打した場合、反作用により、骨頭ボールがゆるんで脱落したり、破損したりする恐れがある。]
 - 2) 打ち込み時には大腿骨の骨折に注意すること。万が一に骨折した場合に備え、固定用のワイヤー等を準備しておくことを推奨する。[骨質や打撃力によっては、打ち込み時に大腿骨が骨折する恐れがある。]
- (7) 一度骨頭ボールと嵌合した本製品には、セラミックス製骨頭ボールは使用しないこと。本製品のテーパ面に傷がある場合は、金属製骨頭ボール (Co-Cr-Mo 合金製) を使用すること。[一度骨頭ボールと嵌合した本製品のテーパ面には傷がついている可能性がある。テーパ面に傷がある本製品にセラミックス製骨頭ボールを使用すると、骨頭ボールの強度が低下し、術後に骨頭ボールが破損する恐れがある。]
- (8) リーミング時の穿破やラスピング時の骨折には細心の注意を払い、けっして無理な力を手術器具に与えないこと。
- (9) 人工関節を整復して創を閉鎖する前に人工関節のすべての摺動面と関節腔内を十分洗浄すること。[摺動面に骨片やセメント片等の異物が介在すると、摺動部の摩耗が加速され、人工関節の耐久性が低下する恐れがある。]
- (9) 肥満症の患者。[インプラントの緩みや破損が生じる恐れがある。]
- (10) 高度な変形性関節症や過去に施術された骨切り等により、軸位置決め の過誤や製品埋入に妨げとなる骨状態の患者。[製品を正常に設置できず、正しい機能を発揮できない恐れがある。]

2. 重要な基本的注意

- ** (1) 本製品については試験による MR 安全性評価を実施していない。**
- (2) 再置換手術の場合は、十分な支持骨の獲得等を検討すること。[骨セメントの除去、インプラントの配置や固定、十分な支持骨の獲得の困難等により、良好な埋植結果を得られず、結果的に本製品の疲労破損が発生する恐れがある。]
 - (3) 人工関節の術後可動域は、インプラントの骨への設置条件によって大きく影響を受ける。従って、術前に患者に必要な術後可動域とそれを獲得するための各インプラントの設置条件を確認すること。
 - (4) 本製品の適用においては患者に以下の事項について説明すること。
 - 1) 人工関節は常に本来の関節より、その機能が劣り、人工関節置換術前の状態と比較して相対的に良好な状態しか得られない。
 - 2) 人工関節の耐用年数には限りがあること、また耐用年数の延長のため運動制限や減量などの術後管理が課せられる場合がある。
 - 3) 人工関節は過負荷や摩耗によってゆるむことがある。
 - 4) 人工関節のゆるみは、再置換術を必要とし、ある特定の状況下では、関節機能を回復する機会が永久に失われてしまう場合がある。
 - 5) 人工関節は、負荷・作業およびスポーツがもたらす極めて過度のストレスには耐えられない。
 - 6) 人工関節置換術後は、医師の指導による定期的な検診を受ける必要がある。
 - 7) 退院後の日常生活についての遵守事項、注意事項等（可能肢位や不良肢位等）。
 - (5) 術中は専用器具に含まれるトライアルを利用して、製品の選択、設置及び固定が適切かどうかを確認すること。また、人工関節の仮整復時には、必要な可動域が得られているか、また、関節の緊張度が適切かどうかを確認すること。
 - (6) 術後においては、インプラントの設置が術前計画通りであるか確認すること。
 - (7) 手術で使用された製品のレコードカードはカルテに貼付すること。（トレーサビリティの確保のため）

3. 相互作用（他の医薬品・医療機器等との併用に関すること）

[併用禁忌・禁止]（併用しないこと）

医療機器の名称等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
アルミナ・セラミックス製骨頭ボール	左記の製品と組み合わせ使用しないこと。	左記との併用を想定していないため、正しく機能しなくなる恐れがある。

4. 不具合・有害事象

(1) 重大な不具合

- 1) 大腿骨及び寛骨臼コンポーネントが、外傷時に変形または破損する場合がある。
- 2) 人工股関節置換術後の大腿骨コンポーネントの疲労による破損が報告されている。ステムの破損は、ゆるみの後に起こりやすいとされている。また、体重の重い患者、活動性の高い患者で、特に小さいサイズの製品で、起こりやすいとされている。

(2) 重大な有害事象

- 1) インプラントに用いられている金属材料が、アレルギー反応の原因になることが報告されている。
- 2) 人工関節の術中および術後に、まれに以下に示す様な有害事象が発現することがある。
 - ・血腫、静脈血栓塞栓、肺塞栓等の血栓塞栓症。
 - ・心筋梗塞。
 - ・神経障害。
 - ・感染症。

- * 3) 骨セメントの使用に伴い、まれに以下に示す様な有害事象が
発現することがある。
- ・ 血圧低下、ショック
 - ・ 心筋梗塞、心停止、徐脈、不整脈、脳血管障害、突然死
 - ・ 感染
 - ・ 脂肪塞栓、深部静脈血栓症、空気塞栓
 - ・ 血栓性静脈炎
 - ・ アレルギー

(3) その他の有害事象

- 1) 人工関節置換術の合併症として、術後感染、脱臼、ゆるみ、
周囲組織の異所性骨化等があげられる。
- 2) 上記の人工関節のゆるみに関して、早期のゆるみは、不適切
な初期固定、潜在的な感染、早すぎる荷重の負荷等が原因で
あり、また、中、長期経過後のゆるみは、生物学的な問題、
局所的な高いストレスが原因で起こっていると考えられる。
また、インプラントの不適切な設置位置や方向がゆるみの原
因になる恐れがある。
- 3) 不適切なセメンティング手技が、ゆるみの原因になる恐れが
ある。
- 4) 術後、患肢に屈曲拘縮、可動域の減少、脚の延長または短縮
が生じる場合がある。
- 5) 周囲組織の異所性骨化が脱臼の原因となることがある。
- 6) 大転子切離を併用する術式において、大転子の癒合不全が、
免荷期間が短か過ぎる場合や、転子部の固定が不適切な場合
に起こる恐れがある。

5. 妊婦、産婦、授乳婦及び小児等への適用

妊娠中の患者には慎重に適用すること。[骨密度が低下し、イン
プラントが適正に固定されない恐れがある。体重が増加し、イン
プラントへの負荷が大きくなり破損する恐れがある。]

【保管方法及び有効期間等】

1. 保管の条件

高温、多湿、直射日光を避けて保管すること。

2. 使用期限(自己認証による)

使用期限(年月)は外箱に記載。

【製造販売業者及び製造業者の氏名又は名称等】

製造販売業者

- * 京セラ株式会社
TEL : 0120-923725